

ビート・メイカーAZZURROが4作目となるフル・インスト・アルバムをリリース クラシック・ブレイクスとベース・ミュージックが同居する唯一無二の音像を確立!



Photo: Tsune

ヒップホップをベースとするシュアなビート・メイクと確かなエンジニアリングで日本のビート・シーンに確かな足跡を残してきたAZZURRO(アズーロ)。盟友Shigeru TanabuとのユニットAZZXSSS(アズクス)での活動を経て、ソロ・アルバムとしては『The B-Side』(2009年)以来となるフル・インスト・アルバム『4』を発表する。

AZZXSSSではダブステップ〜ミニマルへの扉を開いたAZZURRO。だが、『4』の制作にあたっては、UKベース・ミュージックへの傾倒からなかなか抜けられず、納得のいく音像を得られるまで時間がかかったのだという。

「ベース・ミュージックを自分なりに消化し切れていない気がして……小西康陽さんがPizzicato One名義で出した『11のとても悲しい歌』というアルバムが好きなのですが、あるときサンレコを読み返していたら、小西さんが同作の制作にあたって“ダブの<何か足りない>感じを意識した”という言葉があって、ピンときたんです。それまでポリリズム構造に意識が行き過ぎて、グループの異なるパーカッションを重ねる方向で制作を進めていたのですが、そこから音を問引いていったら、求めていた音像に近いものができた。それからは従来のヒップホップ〜ダウンビートもスムーズに作れるようになり、結果的に、これまでの中で最もビートにバリエーションがあるアルバムになったと思います」

制作はABLETON Live 9での波形編集を中心に進められ、GranulatorといったMax for LiveデバイスやNATIVE INSTRUMENTS Reaktorなどを多用したという。

「サンプルはこれまでのストックやフィールド・レコーディングに加え、ノイズなどはCreative Commonsライセンスで

音源が公開されているFreeSoundのものを使ってみました。さまざまな空気感の録音が集まっており新鮮でしたね」

本作のフィジカル版(限定)は、ハンド・メイドの三角ジャケット仕様。しかも曲を指定するPQポイントは打たれておらず、オーディオCDでもない。24ビット/48kHzというCDクオリティ以上の音声データが封入されたDVD-Rだ。

「まずPQを無くしたのは、曲間の“無音”を楽しんでほしかったから。無音であることは、とても雄弁であるように感じられるんです。オーディオCDにしなかったのは……これはマスタリング作業を通して常々感じていることなのですが、DAWで24ビット/48kHzで作業して“よし!”と思ったサウンドも、CDにプレスする過程で膜がかかったようになってしまう。それならば、今回は自分が聴いて納得した状態のままファイルで提供してみようと考えました」

一方、同じ内容のMP3はSoundCloudを通じCreative Commonsライセンスで無償ダウンロードが可能となる。

「音源が継承されて変化しながら広がっていくというCreative Commonsの考え方には共鳴できる場所があったのですが、これまではレーベルとの関係もあり、なかなか実行に移せなかった。今回は完全に自分でコントロールできるアルバムだったので、それならばPQ無し/高音質データのCD-Rと、フリーのMP3にしまおうと。MP3は音質的に自分の意図とは異なりますが、そこはユーザーが選んでくれればいい……個人的には、この音源を使ってオリジナルのミュージック・ビデオがたくさん作られるとうれしいですね」

ヒップホップの質感とベース・ミュージックのローエンド/リズム構造を備えた『4』。このアルバムを基に、どのような新しい表現が生み出されるのだろうか。

AZZURRO Biography

Mellow YellowのDJとして1990年代初めに活動をスタート。オリジナル・トラックの制作に加え、Peanut Butter WolfやNobodyなど海外アーティストのリミックスを数多く手掛ける。2001年初頭にAZZURRO名義で本格的なソロ活動を開始し、これまで3枚のオリジナル・アルバムをリリース。ほかにBLUE NOTEのトリビュート・アルバムへの曲提供、A Tribe Called Quest、DULO (DJ Kiyoo)のリミックスなど多彩な活動を展開する。ハシム・BとのILL SUONO名義で2枚のアルバムを残すほか、Shigeru TanabuとのユニットAZZXSSSでも『Deepsketch』『Universal Century Dub』を発表し、ダブステップ/ミニマルへと音楽性を拡張。Sonar Sound Tokyo 2011にも出演を果たした。音響面への造詣も深く、マスタリング・エンジニアとしてSavas & Savalas、Breakage、DJ Sharkなど100作品以上を手掛けている。2013年よりロサンゼルスネット・ラジオ局dublabbの日本ブランチャdublabb.jpのLabrat DJを務めるほか、Sound & Recording Magazine編集部長として、ジェイムス・ブレイク、ダディ・ケヴ、メーカーではABLETON、NATIVE INSTRUMENTSなどの取材/記事執筆やセミナーなども行う。

Discography→<http://flavors.me/ilmareazzurro>



Photo: Hironori Tomino

Artist: AZZURRO

Title: 4

Release Date: 2013/09/22

White-Stone Recordings: WSRCD-002

Dub In Tomigaya

Gimme Some Dirty

Anya-Kouro Part 3

I Told You So

Corruption

Don't Wanna Know

Longest Red

The Heat Part 1&2

St. Petersburg

Quiet Please

White Out

Unknown Pleasure

Produced, Mixed and Mastered by AZZURRO @ Limone Lab.

※フィジカル版はDVD-Rです。オーディオCDではありません
※購入については下記Webサイトを参照ください
※アーティストの意向により、曲を指定するPQは打たれておりません。ご了承いただけますようお願いいたします